

富士火山西暦 800-1000 年頃に頻発した割れ目噴火群 14C 年代と神津島天上山テフラの層位から

Frequent fissure eruptions during AD800-1000 at Fuji volcano, Japan: 14C ages and stratigraphic relation

高田 亮[1]; 石塚 吉浩[2]; 中野 俊[3]; 山元 孝広[4]; 鈴木 雄介[5]; 小林 淳[6]

Akira Takada[1]; Yoshihiro Ishizuka[2]; Shun Nakano[3]; Takahiro Yamamoto[4]; Yusuke Suzuki[5]; Makoto Kobayashi[6]

[1] 産総研; [2] 産総研、地球科学; [3] 産総研; [4] 深部地質センター; [5] アジア航測; [6] (株)ダイヤコンサルタント

[1] GSJ,AIST; [2] Geol. Surv. Japan, AIST; [3] GSJ, AIST; [4] GSJ, DGERC; [5] Asia Air Survey; [6] Dia Consultant co.,Ltd.

<http://staff.aist.go.jp/a-takada/Fujiproject.html>

富士火山では、火山活動の盛衰や噴火様式の変化の波があり、最近では、西暦 800-1000 年前後に多くの割れ目噴火が起こったことが指摘されている(山元ほか, 2002; 高田ほか, 2004)。割れ目噴火の年代、方向、位置などの諸情報の充実、テクトニクスとの関係を議論する上でも、重要である。産総研では、富士火山の地表地質調査とトレンチ調査(高田ほか, 2004; 石塚ほか, 2004; 中野ほか, 2004; 鈴木ほか, 2004; 小林・高田, 2003)で、青木が原溶岩で代表される貞観噴火以外にも、歴史時代に相当する多くの噴火が明らかとなってきた。本報告では、現在調査中の東山腹を除く地域で新しく発見された溶岩流、存在は知られていたが年代が不明であった溶岩流について、14C 年代測定を行い、小林ほか(本学会発表)で報告する神津島天上山テフラ(西暦 838 年噴火)との層位関係を加えた結果を、割れ目噴火口列の位置とともに報告する。本報告では、すべて暦年代補正を行った 2 シグマの誤差の年代範囲を使用した。

1. 南 南東山腹

湯船 2 噴火以降で西暦 800 年頃より十分古い噴火は、小天狗、二ツ塚、赤塚、青沢である(山元ほか, 2002; 高田ほか, 2004)。今回、印野溶岩からは、西暦 390-550 年の年代が得られた。西暦 800 年に近い噴火は、鑓子山(西暦 670-970 年)と大淵スコリアで、神津島 838 年噴火の火山ガラスの直下に位置する。

水ガ塚檜丸尾溶岩(津屋, 1968)は南ガラン塚の割れ目火口列から噴出した(小林・高田, 2003)と考えられるが、その直下の炭化物より西暦 690-890, 680-890 年の AMS 年代が得られ、その直下に神津島 838 年噴火の火山ガラスが濃集していることから、西暦 800 年代中期に噴火したものと考えられる。新富士中期のスコリア丘である東臼塚(小林・高田, 2003)の山麓から南に続く約 2 km 程度の割れ目から噴出した東臼塚南溶岩(新称)は、その直下の炭化物より西暦 720-960 年の AMS 年代が得られ、その直下に神津島 838 年噴火の火山ガラスが濃集していることから、西暦 800 年代後半に噴火したものと考えられる。大淵丸尾溶岩(津屋, 1968)では、溶岩直下の 2 試料の炭化物から、それぞれ、西暦 770-980, 790-1000 年の AMS 年代が得られた。神津島 838 年噴火の火山ガラスがこの直下に濃集していることから、西暦 900 年前後の噴火と思われる。この溶岩は、標高 1030m から 790m までの 3km にわたる割れ目火口列から噴出した。その末端の位置は、山頂から 13km 強の距離である。

不動沢溶岩とその直上の日沢溶岩は、西暦 1000 年頃に、それぞれ、標高 2850-1370m の間に長さ 4km、標高 3200-2250m の間に長さ 2km にわたり分布する南北走向のほぼ平行な割れ目から噴出した。同じく西暦 1000 年頃の北山腹の割れ目噴火からもたらされた剣丸尾 1, 2 溶岩と類似する。また、東富士演習場で新たに発見された三角山神社溶岩(新称)は、その直下の炭化物より西暦 990-1160, 890-1030 年の AMS 年代が得られ、西暦 1000 年前後の噴火と思われる。現在、最も新しい年代を示す溶岩は、須山胎内の上部の割れ目から噴出した須山胎内溶岩(新称)で西暦 1030-1230 年ある(小林・高田, 2003)。

2. 西-北山腹

白大竜王・氷池溶岩は、西暦 640 年 770 年の年代が得られ、御庭・奥庭第 1, 2 噴出物に被われている。焼野溶岩・西丸尾溶岩とそれを被う御庭・奥庭第 1, 2 噴出物は、その直下から多くの炭化物が採取されているが、AMS 年代のすべての結果が、西暦 700-900 年の範囲にはいつていた。しかし、その直上に神津島 838 年噴火の火山ガラスが濃集していることが確認できたため、西暦 700 年後半 800 年頃の噴火と考えられる。御庭・奥庭第 1, 2 噴出物は、それぞれ、標高 3400m から 2100m までの 3.5km にわたる、標高 3000m から 1570m までの 5.5km にわたる割れ目火口列から噴出した。

天神・イガトノ噴出物直下の炭化物より、西暦 610-960 年の AMS 年代が得られているが、下位に神津島 838 年噴火の火山ガラスの濃集を確認したので、天神・イガトノ噴火は 838 年以降、864 年の貞観噴火までの時期に噴火したと考えられる(小林ほか, 本学会)。西暦 1000 年頃には、北山腹で南北走向の平行な割れ目群から、剣丸尾 1, 2 溶岩が噴出している。今回新たに、剣丸尾 2 溶岩直下の炭化物からは、西暦 1010-1180 年の AMS 年代が得られた。

3. 北東 東山腹

檜丸尾第 2 溶岩、鷹丸尾溶岩は、神津島 838 年噴火のテフラに被われ、すでに得られている AMS 年代を考慮すると西暦 700 年代後半から 800 年頃と考えられる(中野ほか, 2004)。この地域は、多くの噴出物が確認されて

いるが、現在調査中なので、別の機会に報告する。

.